

3.2 合同スタディツアー

目的	普段異なる場所で活動を行う大槌町吉里吉里・陸前高田の両セクションが互いの活動場所を訪れ、町を知り、地域の方と交流することでさまざまなことを吸収し今後の活動につなげる
活動日、場所	2018年2月14日（水）～2月17日（土） 宮城県気仙沼市、岩手県陸前高田市、岩手県上閉伊郡大槌町
参加人数	大槌町吉里吉里復興支援プログラム：5名、陸前高田復興支援プログラム：4名、引率1名（中原ボランティアコーディネーター）

●行程

日程	場所	活動内容
2/13（火）	東京都	夜、池袋から夜行高速バス「けせんライナー」で陸前高田へ
2/14（水）	陸前高田市	朝、陸前高田市役所到着
	陸前高田市	被災地見学 気仙中学校跡地、一本松遠景、かさ上げ地商店街（アバッセたかた）、普門寺、海岸沿いを見学
	気仙沼市	リアス・アーク美術館にて常設展示「東日本大震災の記録と津波の災害史」、南町紫神社前商店街を見学
2/15（木）	陸前高田市	長洞元気村の方々と昼食づくり。お話を伺う
	陸前高田市	アバッセたかた見学
2/16（金）		陸前高田から大槌へ移動
	大槌町	一般社団法人おらが大槌夢広場による語り部ガイドツアー
	大槌町	おおつちおばちゃんくらぶにてデコ鯉を作成
2/17（土）	大槌町	町立公民館吉里吉里分館（体育館）にて「お茶っこの会」参加。地域の方々と交流
	大槌町	町立吉里吉里学園小学部体育館にて、「わんぱく広場」実施。地域の子どもたちと交流
	大槌町	夜、吉里吉里一丁目バス停から夜行高速バス「遠野釜石号」で上野駅へ
2/18（日）	東京都	朝、上野駅着、解散

（学生メンバー 心理学部心理学科）

●それぞれのセクションからの参加学生の声

【大槌町吉里吉里セクション】

感想・活動を通して得た学び

印象に残ったことは、陸前高田と吉里吉里では大きく復興の状況に違いがあること。過疎化や産業の問題、特にコミュニティの問題が深刻であることは、陸前高田も吉里吉里も共通していたと思う。さらに、語り部さんのお話や現地の方々から現状や心境を伺ったことで、地域の方から望まれるボランティアとは何かをしっかりと吟味し、次回に生かすための経験を身につけることができた。

今後に向けて

陸前高田・吉里吉里のどちらも、お会いした方々の「伝えたい」という思いを強く感じた。津波への対策は、ただ「防潮堤を築けばいい」のではなく、知識をしっかりと身につけ自主的な行動ができるようになってほしいと私たちに投げかけていた。この皆さんの思いを発信していくことも、私たち学生の役割の一つであると感じた。多くのことを学ばせていただいていることに感謝し、望まれるボランティア活動を目指すためにも自ら知る姿勢を持ち続けることが重要であると考えている。

(学生メンバー 心理学部教育発達学科)

【陸前高田セクション】

感想・活動を通して得た学び

今回の陸前高田・吉里吉里の合同スタディツアーでは、普段の活動に加えてもう一方のセクションの活動をともに行ったため、両地域に共通する問題やそれぞれの復興状況を知ることができた。共通する問題としては「心の風化」があげられ、震災の記憶を薄れさせないためにも語り継ぐことが重要であるということを実感した。

今後に向けて

東日本大震災から7年が経ち、ボランティアとして大学生である自分たちにできることは、「心の風化」を防ぐために、現地を訪れて学んだことを他の人たちに伝えていくことであると感じた。また、今後は現地を訪れて学ぶだけでなく、きりりんきっずでの活動、けんか七夕まつり・うごく七夕まつりの活動を通して地域の方々との交流を深めていきたい。

(学生メンバー 経済学部経営学科)